

アリとハチを巡る多様性生物学

教員名：橋本佳明

連絡先メールアドレス：yoshiaki@katmark@hitohaku.jp

◎ どのような研究をしていて、どんなことに役立つのか？

アリやハチを主な対象に、熱帯雨林から里山まで、それらの多様性や生きもの同士の共存関係を研究しています。これまでに、ボルネオ島熱帯雨林の1本の木に、日本本州に生息するアリ種数と同じ数のアリ種が生息していることや、アリ類の種多様性の高さが、まるで写し鏡のように、アリと共存するアリ擬態クモ類の種多様性を創出していること、さらには、日本の里山里地で、残存林の面積や配置が、そこを住処とするアリやハチ類の種多様性が大きな影響を与えていることなどを明らかにしてきました。最近は、こうしたアリとハチ類を巡る分類学から群集生態学、進化生態学までの研究成果を基盤に、特定外来種ヒアリの対策で国や地方自治体に指導助言を行うなど、外来種問題においても様々な社会貢献を展開しています。ヒアリをはじめ、外来種問題を解決していくためには、対象とする生物群の分類や生態の知識が不可欠で、そこに、物流などの経済学やパニックを防ぐ社会学の知識を取り入れることができる柔軟で、かつ、本格派の生物学者が求められていることを強く実感しています。



◎ 主な研究業績

- 1) アリ擬態現象から探る熱帯の生物多様性創出・維持機構 橋本佳明 (2016) 日本生態学会誌 66: pp 407 - 412, pp 279-296.
- 2) Vertical habitat use and foraging activity of arboreal and ground ants in a Bornean Tropical Rainforest. Y. Hashimoto et al., (2010) Sociobiology, 56 (2) pp. 435-448.
- 3) アリ相を通してみたニュータウン内孤立林の節足動物相の現状と孤立林の保全について 橋本佳明 (1995) 造園雑誌 57 pp 223-228.

◎ 学生に向けて一言

基礎的なことが、実は、一番役に立つことを、世に知らしめるべく、一緒に頑張ってみましょう。